

東広島市教育委員会定例会（平成30年7月）議事録

1 日 時 平成30年7月26日（木）午後2時30分～午後4時45分

2 出席者

（1）教育長 津森教育長

（2）委員 渡部教育長職務代理者、坂越委員、織田委員、長嶋委員、京極委員

（3）選定委員会 山田委員長

（4）事務局 【学校教育部】

大垣学校教育部長、直井学校教育部次長兼教育総務課長、祭田指導課長、
三井指導主事、高橋指導主事

（5）書記 奥田主査、白川主事

3 場 所 北館 会議室201

4 議 題

（1）議案事項

議案第11号 平成31年度使用小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）及び
中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）の採択について【非公開】

再開 午後3時10分

議案第11号 平成31年度使用小学校用教科用図書（「特別の教科道徳」を除く）及び中学
校用教科用図書（「特別の教科道徳」）の採択について

○ 津森教育長：再開します。

○ 津森教育長：それでは、議案第11号平成31年度使用小・中学校教科用図書の採択につ
いてこれから審議いたします。

教育委員会として平成31年度使用の小・中学校教科用図書について、種目ごとに
教科用図書を採択することでございます。

本件の審議につきましては、次のような手順で行いたいと思います。

まず、選定委員会の委員長から教科ごとに推薦内容とその理由の説明を受けま
す。そして、これに基づき委員との質疑応答を行います。その後、選定委員会の委
員長さんには退出していただき、教育委員会委員のみで審議を行います。そして、
種目ごとに教科書を採択してまいります。種目がたくさんございますので、審議は
小学校と中学校の2つに分けて、まず小学校、その次に中学校ということで、選定
委員長は一度小学校の説明が終わったら退出していただいて、また来られるという
形で進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、早速、選定委員会、山田浩之委員長に入ってください、この推薦内
容とその理由を説明していただきます。

山田委員長の入室を認めます。

○ 山田委員長：こんにちは。広島大学の山田です。よろしくお願ひいたします。

推薦理由書がお手元にあるかと思います。ずっと読むよりもポイントをお話をしたほうがよろしいかと思います。よろしいですか。

- 津森教育長：はい。
- 山田委員長：まず、国語ですが、第1推薦が東京書籍、第2推薦が光村図書となっております。どの教科書もとてもよくできていまして、なかなかどれがいい、悪いというような話は難しいですが、この東京書籍が非常に丁寧につくってありまして、特に挿絵等が非常にきれいにつくってあるんですね。第1推薦の図書と比較すると、光村図書の方は話すこと、聞くことの単元の配列や、あるいは興味関心や学習を理解するための挿絵、図表などの資料のあり方について工夫の余地があるということで、挿絵等が東京書籍は非常にきれいで見やすく、特に小学生ですので、そういう関心を引くということで東京書籍を第1推薦にしました。

次が書写ですが、書写、国語との関連ということもございますので、同じ出版社が使いやすいということ。それと東京書籍と日本文教出版、なかなか優劣はつけがたいんですが、毛筆と硬筆の関係について、要するに毛筆中心ですけども、そこから硬筆へのつながりについての記述が東京書籍のほうが非常に丁寧でわかりやすいということで、東京書籍を第1推薦にしたということです。

次に、社会です。

東京書籍の教科書が非常に丁寧につくってあるんですね。いわばチャート式の参考書のような形で、自分でも勉強できるような形になっております。ところが、それがプラスに出る教科もあれば、マイナスに出る教科もございます。社会はそれがちょっとマイナスに出ているのではないかということです。資料の構成、配列や活用の視点に立った資料の表現、表記方法が十分とは言えないというふうにしてありますけども、これは要するに、丁寧過ぎて、自分で勉強するというような、そういう形にならないのではないかと、それよりも授業の中で使って、そして自分で勉強するという点では日本文教出版のほうが優れているのではないかと、第1推薦は日本文教出版にしております。

次に、地図についてですが、非常にきれいで、しかもキャラクター等が出て、子供の視点に立ったことをしゃべっております。これも東京書籍のほうがちょっと丁寧過ぎるところがありまして、自分で索引等をつくることのできるようになっておりますが、それよりも地図というのは自分でいろんなものを探すというほうが大切ではないか、それで見目のきれいさというのと、そういう自分でいろんなものを探していけるという点で帝国書院のものを第1推薦とさせていただいております。

次が算数です。これは第1推薦、東京書籍、第2推薦が学校図書です。これは東京書籍のほうがその丁寧さというのが非常にメリットとして出ています。非常に丁寧で、子供がつまずいたときでも要するにわかりやすく説明がされています。算数でわからないということがあっても、それを補助して、自分でも勉強できるような、そういう形にこの東京書籍の教科書はなっていますので、これがよいのではないかと、東京書籍を第1推薦にしております。

次に、理科です。一番下に3点書いていますけれども、第1推薦は東京書籍です。課題から実験や活動、結果やまとめまでが一本のラインでわかりやすい、要するに、自分で理科の勉強というのをするのができますし、つまりいて、わからないことがあっても、それをフォローするような、そういう記述というのが十分になされています。あと、理科のものは、例えば見開きに右側に何かそういう課題があって、左側にその答えがというような形になっていると、ぱっと見てもう答えがわかってしまうんですね。でも、東京書籍は、そこを工夫されていまして、めくるとその答えが出てくるようにしています。そういった意味でも子供たちが自主的に学ぶという意味では非常によいということと、あと文章が1文1文で改行されて、句点で必ず改行するような、途中の改行をされない、これはそういう、ちょっと課題を抱えた子供たちも非常に読みやすい文章になっているということで、このユニバーサルデザインという点でも理科の教科書は東京書籍が優れているという評価で第1推薦にしております。

次に、生活科です。この生活科も東京書籍を第1推薦にしております。特に幼児教育との接点の部分で、「すたあとぶっく」という、導入部分のようなのがあります。これは学校生活をどうするかというような、そこらが、全体を象徴するようなところですけども、これが非常に丁寧で、しかもポイントがうまく絞られて記述されています、見ていただくとよくわかると思うんですけども、そういう全体の内容というのが多くもなく少なくもなく、適度に配置されている形になっておりまして、わかりやすいというのが東京書籍の教科書なので、第1推薦にしております。

次に、音楽です。これは教育芸術社と教育出版の2社なんですが、教育芸術社のほうがいわゆる单元ごとの題材といたしますか、作品が多くなっています。一方で教育出版のほうは单元について2曲とか3曲ぐらいしか曲が載っていません。そういうことから、教育芸術社のほうが非常に使いやすく、それぞれの单元の中で膨らみを持った指導というものが可能となるのではないかとということで教育芸術社の教科書を第1推薦としています。

次に、図画工作です。第1推薦には、開隆堂を上げています。これは図画工作の絵ですとか、工作ですとか、絵が非常にあるんですけども、その絵が非常にきれいなのが開隆堂です。ですので、開隆堂は絵の出し方が非常にきれいだということ、あといろんな制作をしたりする手順も細か過ぎないで、非常にわかりやすく、しかも大きな図を使って説明をしているということです。分かりやすさ、美しさで開隆堂の方が優れているということで、開隆堂を第1推薦にしております。

次に、家庭科です。第1推薦は東京書籍なんですが、東京書籍の家庭科の教科書は非常に丁寧につくってありまして、あと、どれも1種のマニュアル的な形にはなっているんですが、要するにどのような手順で作業を進めるかというのが非常にわかりやすいのと、東京書籍は子供たちが実際につまづく点というのを非常にうまく取り上げて、それをどう解決するかということが教科書の中に書いてあります。授

業で使うだけではなくて、自分で何かを作るときなど、困ったときに教科書を見れば、それを解決する方法が書いてあるということで、自主的な学習を進めるという意味でも東京書籍が優れているのではないかとということで、東京書籍を第1推薦にしております。

最後、保健なんですけど、これは学研教育みらいが第1推薦になっています。これは実際に授業でやったこと、要するに教科書に載っていることと実生活のつながりというのがこの学研教育みらいのほうが非常に詳しくといたしますか、実際と実生活を結びつけるような形で記述されている、そういうチェック項目が充実していました、学びを生かして明日に続ける、生活に結びつける、そういう点もこの学研教育みらいのほうが優れているということで、学研教育みらいの教科書を第1推薦としております。

ポイントを中心に進めましたが、以上が小学校の教科書の全部になります。

○ 津森教育長：ありがとうございました。

それでは、全般を通じて小学校の使用する教科書につきまして質疑をいたしたいと思えます。

質疑がありましたらお願いいたします。

○ []：教科書を見ると、特に算数だとか理科というのは、何か少しレベルが下がるような気がします。そういうところは考慮されているのですか。

○ 山田委員長：私も専門ではないので、どの程度というのをはっきり言うことはできないのですが、調査された先生方がその辺のレベル差というのかなり考えられているようです。特に理科はすごく専門的な教科書というのがありまして、それが使いやすいという先生もいるようですけれども、今回そういうものではなくて、簡単過ぎないように、適度な内容を持っているのを選考しました。理科は専門用語がいろいろ多用されて、非常に高度なものもあるようです。でも、今回選んだものはそういうものではない、標準的なというものです。

○ []：そういうのを選ばれてるのかなという感覚です。

○ 津森教育長：それでは、山田委員長さん、一旦ここで退出をお願いします。

○ 山田委員長：ありがとうございます。

<山田委員長退出>

○ 津森教育長：それでは、委員の皆様での審議をお願いいたします。

それでは、まず国語ですが、東京書籍を採択するという事でよろしいでしょうか。

○ 委員：よろしい。

○ 津森教育長：それでは、東京書籍と決定いたします。

採択理由につきましては、先ほど説明がありましたが、丁寧さが際立つ、それから写真、挿絵なども随所に効果的に活用されており、興味関心を高めたということといたします。

次に、書写でございますけども、それも東京書籍を第1推薦とすることでよろし

いでしょうか。

- [] : やっぱり関連しているほうが使いやすいです。
- 津森教育長：採択理由は、関連性があり、毛筆の学習を硬筆に生かすことができるよう工夫されているということでございます。よろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：次に、社会でございますけど、社会は日本文教出版ということでよろしいでしょうか。
- [] : 異論ないんですけど、今委員長の説明の中で、使い方というのか、できるだけ主体的に疑問を持たせて考えさせるような教科書、教科によってはしっかり丁寧に説明している教科書がいいとか、当然理科にしても社会にしても国語にしても主体的に学ぶ教科書がいいわけであって、すぐ答えが出てこない教科書の方が望ましいと、その辺のニュアンスの違いというのか、社会は丁寧さよりもというようなニュアンスで聞いたんですけど、そのあたりは実際に教科書を使われる先生はどういう思いがあるのでしょうか。
- [] : 詳し過ぎるかどうかというところが論点なのかなと思うんですけども、学習指導要領に載っていることが基本にあって、それ以上のことが書かれてあったとしても、子供はどこに目を向けたらいいのかがやはりわからない、文章にしても図表にしてもそうですけれども、たくさんの資料があればあるほど焦点が絞られにくくなるので、そのあたりは適切に載せられているものというのが第1推薦になっているということだと思います。
- [] : 日本文教出版の方が資料を見て問いが作りやすいというのも理由の一つになったと思います。課題をつくるきっかけを持たせる資料の掲載とかという面で、日本文教出版のほうが使いやすいという判断をされたということではないかと理解しております。
- [] : 私なりに解釈すれば、社会だったら児童の生活と絡めた問いをつくりやすいというような意味かなと思います。ありがとうございます。
- [] : 小学校の社会科は、教科書だけでなく、地域の教材を使います。そのために教科書で学習方法を学ぶという性格が強い。そういう意味で日本文教出版になったのかなと私は思います。
- 津森教育長：それでは、採択理由としては、全般的な資料の配置とか、調べ方、まとめ方が適切であり、情報量も多過ぎないということといたします。よろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：次は地図でございます。これは2社しかないわけでありましてけれども、これについては、第1推薦の帝国書院にすることでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、ご承認といたします。採択理由については、帝国書院のほうが見やすく、わかりやすく、地図として読み取りやすいということとあります。

- 津森教育長：次に算数については、6社あって、それを選定委員会で第1推薦、第2推薦を選定されておりますけれども、第1推薦の東京書籍ということでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由につきましては、中ほどにありますように基礎的な内容を確実に定着するように細やかな説明や視覚支援がされているということとしたいと思います。
- 津森教育長：続いて、理科でございます。理科は5社ありまして、東京書籍、教育出版ということが推薦に上がってきておりますけれども、ご意見がございますでしょうか。
- 津森教育長：第1推薦の東京書籍でよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：この2つの推薦につきましては、情報量が適切で、児童のノート例があるなど他社より優れているのですが、東京書籍は、課題から実験、活動、展開、まとめまでが一連となっておりわかりやすい、また結果やまとめが次のページにあって、結果がすぐにわからないように示されているということ、文章の表記が読みやすく工夫していること、そうした点を理由としたいと思います。
- 津森教育長：次に、生活です。これは7社あるのですが、第1推薦の東京書籍とすることよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：説明の中でもありましたけれども、特に「すたあとぶっく」というのがあって、こういう感じで、手の挙げ方からいろいろあるんですけど、こういうところが特徴的ということでございます。幼児教育との接続を図るための配慮があるということと、3年生からの理科につながる内容が充実しているということを採択理由とします。
- 津森教育長：それでは、音楽に参ります。音楽は2社しかございませんけれども、教材の数が多いということで第1推薦の教育芸術社のほうが優れているということでしたが、教育芸術社とすることよろしいでしょうか。ご意見ありますか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由といたしましては、各題材の中の教材の数が多く、問題解決的な学習がしやすいということといたします。
- 津森教育長：次に、図画工作でございます。これも2社でございますが、第1推薦の開隆堂とすることよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由としては、必要な材料がわかるように工夫してある、地域の伝統や工芸に目を向けた工夫があるということといたします。
- 津森教育長：家庭科でございます。家庭科は2社ですけれども、第1推薦の東京書籍とすることよろしいでしょうか。

- 委員：よろしい。
- 津森教育長：第1推薦の東京書籍のほうで、児童が困ったときに確かめるページが実物大で示されていること、これは非常に効果がある。これを理由といたします。
- 津森教育長：そして最後、体育でございます。これは5社あるんですけども、特にこの第1推薦や第2推薦の教科書は、資料や思考を深める視点において優れている、主体的な活動の学習が期待できるということでありました。第1推薦の学研教育みらいにするということではよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：理由といたしましては、「学研教育みらい」は学習後の振り返りでチェック項目が充実しており、自分自身の生活に生かせることがあるということで採択理由といたします。
- 津森教育長：それでは、次に中学校「特別の教科 道徳」について、準備のため、少し休憩いたします。

(休憩)

- 津森教育長：再開します。山田委員長の入室を認めます。

<山田委員長入室>

- 津森教育長：中学校特別の教科道徳についての説明をお願いいたします。
- 山田委員長：中学校の道徳について説明をいたします。

推薦理由書を見ていただければと思います。初めてですので、中学校「特別の教科 道徳」については少し丁寧にご説明をしたいと思います。

昨年小学校の道徳の選定をしましたが、そのときにもいろいろ議論がございまして、特に教材の内容ですとか、あるいはその教材の量ですとか、そういったものについていろいろ議論があったと思いますが、1年経って非常に収れんされてきて、どの教科書も非常によくできているといえますか、多様ではあります、でもそれぞれの主張みたいなものはありながら、形も少し収れんされてきているようなところがあります。東京書籍を第1推薦にしております、この東京書籍については、まず各項目なんですけど、各教材の中で取り上げる教材の最初にそういう内容項目、道徳では22の項目がありまして、22の項目を取り扱うことになっているのですが、それが明記されていません。大枠としてタイトルがついているだけで、その内容項目が明示されていないというので、生徒に先入観を持たせない、そんなつくりになっています。また、教材の内容も非常に適当であるということと、あと発問の数というのは、これは実は教科書によって大きく違ってございまして、発問の数が非常に多いもの、あるいは副読本のような形で冊子がついているものもありますし、あるいは非常に少ないものというものもあります。これらは多いと、授業で使うのがなかなか難しいということが論点にあがりました。内容を全部やらないと、後で保護者の不信感を招くのではないかというような話もありました。それでちよっ

と多過ぎるのはどうか、教員の自由度といいますか、教員がいろんなことをやりたくてもそれがなかなかできない、その時間的な余裕がなくなってしまうということです。一方で、少な過ぎると、今度は何をしたいか、特に若手の先生方には扱いが非常に難しくなるのではないかとということ、そういう意味で発問数や教材数が非常に適度であるというのがこの東京書籍ということです。それが推薦の理由なのですが、それ以外にも、東京書籍では、先ほど内容項目を書いていないと言いましたが、実は書いていないのではなくて、目次の次に、内容項目とその教材の対応表のようなものを示しています。また、各教材の下のところに他の教科との関連を示すマークがついているんですね。最初の見出しの下のところを見ていただくと、そこにマル理とか、マル国とか書いていまして、それぞれの他の教科とのつながりというか、それを示しています。そのような形で多様な使い方というのができて、教員の裁量によってさまざまな使い方ができるという意味でも東京書籍が優れているのではないかとということで第1推薦としております。

以上です。

- 津森教育長：それでは、委員の皆様、質問がありましたらお願いいたします。
- []：一般的に、前回の小学校の時もそうなんですけど、東京書籍のものは比較的、今の説明ではいろんな工夫がされているということはよくわかったのですが、これまでの副読本というか、それをかなり踏まえたような形で、先生がある意味使いこなせるというような説明もあったと思います。今回そういう観点はどうだったんでしょうか。つまり第2推薦の教育出版と比べたときに、例えば考えさせるというのがありますが、考えさせたり議論させたりするというような意味合いでそういうのが使いやすいというのが、やっぱりこの東京書籍の方にも確認できたとか、そういうのはいかがでしょうか。
- 山田委員長：一番は、教員の使いやすさというのが東京書籍を推薦した一番の理由です。要するに先生方が授業の中でどのように使うかというのは本当にいろんな使い方ができるということが重要で、これをもとにして議論できるし、あるいは教員主導で話をすることもできる、そここのところがポイントになっています。そういった多様な使い方というところで東京書籍のほうが優れているのではないかと。また、見ていただいたらわかりますが、どれもすごく挿絵等がきれいなんですね。興味を引いて読ませるような工夫というのもどの会社もやっていますので、生徒が読むという点では、ある意味どこのものでもそれほど違いはないのかもしれない。でも、教員が授業でどのように使うかということを考えたときに東京書籍が使いやすいということです。
- []：だけど、学研のも結構近いと思うんです。これはやっぱり細かく書き過ぎているんですかね。
- 山田委員長：細かすぎると逆に授業中の自由度がなくなってしまう。教員の使いやすさという意味で、例えば何か生徒に書かせることが多くなると、これでもう授業が終わってしまう。議論をさせたりするにはもう少し自由度があったほうがいいと、

そういうことです。

- [] : 教師が指導しやすく、本時のねらいが達成しやすい教科書を選ぶことが大切です。特に最近では、若い教師が多いということを考慮する必要があると思います。
- 山田委員長：そうですね。いろんな質問がいっぱいざっと書いてあっても、それが全部できるわけではないのです。でも、質問が少なければ、一定の数でとどめてあれば、それ以外のこともできますし、教師が教材研究をする指導書からいろんな質問を考えることもできますし、あるいはそれとは違う自分で考えて指導することができます。道徳の授業では、生徒の多様な考えを引き出すために、揺さぶることというのが非常に大切になります。こんなふうにしなきゃいけないんだよって終わってしまうと、それは頭の中の単なる知識で終わってしまいます。自分だったらどうなのかを考えさせる。そのためには、やはり何か作業をさせて書かすというよりも、とにかく考えさせて、議論させて、そういう時間をつくる、その必要があるということです。そのために、それで使いやすいものということだけで考えていただけるといいかと思います。
- [] : 揺さぶるということによって、やっぱり挿絵であるとか、写真であるとかというのは効果的ですか。
- 山田委員長：はい、それも重要だと思います。効果的だと思います。東京書籍はそういう意味でも挿絵も非常にきれいにしてあると、より見やすくしてあります。他のものも、基本的には、非常にきれいです。
- 津森教育長：委員の皆様も尽きたかと思しますので、これで質疑を終わりたいと思います。

それでは、山田委員長の報告は以上でございます。ありがとうございました。

- 山田委員長：どうもありがとうございました。よろしく願いいたします。

<山田委員長退出>

- 津森教育長：それでは、委員の皆様にも議論をお願いしたいと思います。
初めて採択するということでもありますので、第1推薦、第2推薦と上がってはおりますけれども、その他にそれ以外にもここがよかったのではないかと議論があれば、そこから議論してもいいと思うのですが、どうですか。
- 津森教育長：全体をしっかりと見ていただいたと思いますので、1人ずつご意見いただいてもいいですね。
- [] : 私は東京書籍が先ほど言った挿絵であるとか、写真の使い方がすごく効果的であったかなというふうに思います。深く学ぶというところで、1年生、130ページの「花に寄せて」、これは合唱曲にもなっています。それを勉強した後に合唱曲も聞いたり、一緒に歌ってみたりすることで、またより深く学ぶことができると思います。
- [] : 結論自体はこれで良いかなと思います。見比べて、オーソドックスで、いずれも教科書、もちろん学習指導要領を基にしているのです、どれも一応クリアして

いると思うのですが、例えばあかつきのオーソドックスさだったり、学研のわかりやすさだったり、今回上がっている東書と教育出版、このあたりの中だったら、大体どれを選んでもそんなに問題はないだろうなというふうには理解した上で、今回道徳の授業としての活用のしやすさという観点で東書という判断が出たのは、それはそれでいいのかなと思いました。

○ ■■■■：どの教科書も大体よくできています。特にイラストだとか写真とかですね。それと、私はスポーツ関係について、やはり感動もの体験ですかね、広島カープとか、そういうところですね。第1推薦、第2推薦とありますけども、この評価はこれを参考にすれば良いのではないかと私は思っております。

○ ■■■■：道徳が教科書になって、考える道徳、議論する道徳の授業が求められています。このことを頭の中では分かっているけれども、実際の授業でどうすればよいか戸惑っている教師もかなりいると思います。このような現状では、児童生徒にとって深い学びの手引きとなり教師にとっては指導上の参考になる東京書籍が、教科書として適しているかと思っています。

例をあげれば、最初の見開きのページなどです。授業が画一的になるといえるかも知れませんが、道徳の授業の経験が少ない教師にとっては、指導法として参考になるのではないかと思います。

考えたり議論したりするには、時間が必要なんです。教育出版は、長文の読み物資料がやや多いように感じます。また、発問の数も多いように思います。考え・議論する時間が十分確保できないのではないかとこの心配があります。東京書籍はそういう点でも工夫があるように思います。

さらに、東京書籍の読み物資料には、温かく心に響く資料が多いように思います。

○ ■■■■：先ほどの東京書籍、私はこれかなと思うんです。先ほどちょっとお話があったように、初めてやる先生にとってある程度多過ぎてもいけないし、少な過ぎてもいけないのかなと、多分ここらあたりがちょうどいいのかなと思います。設問が非常に少ないと、教員がやっぱり無理をされると思うんです。そういう中身のところと、それがちょうど中庸で、先ほどのはちょっとあり過ぎたなという、型にはめ過ぎかなというようところがあったので、私は東京書籍さんでいいのかなというふうに思いました。

○ 津森教育長：教科書の見本本を展示した会場の意見を事前に送付していましたが、ごらんになりましたか。

○ 津森教育長：それを踏まえてのご意見を今いただいたと思いますが、聞いておりますと、大きな意味でそのあたり意見の乖離のようなものは余り感じなかったんですけども、まずそうしたことを踏まえますと、一応8社とたくさんあるんですけども、この選定委員会が推薦された第1推薦と第2推薦のうちから選ぶということはよろしいでしょうか。

○ 委員：よろしい。

- 津森教育長：それでは、第1推薦を東京書籍、第2推薦教育出版というので限定して、もうちょっと議論をしていただけますか。
- ■■■■■：1つ質問ですけども、東京書籍の方はそれぞれの課題が最初に書いてないですね。教育出版の方は一番最初に書いてありますが、これは生徒にとってはどちらが学びやすいですか。
- ■■■■■：基本的には書いてなくても自分の生活を見直してとタイトルがあったら、子供はもう先にインプットされてますよ。だから、ある程度子供がそうやってインプットされた先入観を持って見ているのをひっくり返してやるのが道德の指導じゃないかなと思います。
- ■■■■■：両面あると思うんですよ。本時は、この道徳的課題について学習するのだと児童生徒は分かっているんで、学習中での多面的・多角的な見方や考え方に気付くことが出来るのではないかなと思うんです。課題が記述してないと、時に、活発に議論したが、最後は本時のねらいとはずれているということが私の経験でありました。だから、一長一短だと思います。いずれにしても、教師の指導の力量と大いに関係があるように思います。
- ■■■■■：特に中学生になれば、もうそれなりの思いというのはあるわけなんで、ちゃんとでき上がってますよね。それを見た上でそのまま普通の言葉上の理解をしていくって、これを破ってやること、深めてやること、やっぱりそこが先生の役割では。
- ■■■■■：揺さぶりをかけていくという、今まで当たり前だと思っていたことが、そういう見方ばかりじゃないな、というのを気づかせるのが大切だと思います。
- ■■■■■：そういう意味で言うと、教育出版であり、もう最初からもちろん問いの形でね、今日の質問はこれだよって書いてしまっているというのは、明示的過ぎるというように思います。
- ■■■■■：ちょっと私が1つ気になっていまして、東京書籍なんですけど、終わりにこの心情円をつくって、それから終わるとマーカーで書けるのがある、これ教科書会社がやることかなと思うんですよ。
- ■■■■■：それだけ丁寧ということなのかなと。
- ■■■■■：それでいいのかなと思うというのと、それからその上に青色のページがあるでしょう、これ3学期制を前提にして学期ごとに振り返るようにする、これで評価するようになるという、どうしてなのかなと思うんですよ、そういう授業の盛り上げ方とか、評価の仕方のところの材料が入っていますよね、東京書籍には。教育出版はそういうのはない。それを是とするのか、だからそういうのがあったらこっち側使っていていいでしょうというふうに考えるか、いや、それはポイントじゃないというふうに整理されたのか。選定委員会においては、それは触れていないので、それはもう全然優位性がそこにあるよと考えてないんですね。
- ■■■■■：私はきっと先生たちの実態を見て、やっぱり最低これを利用したらいいよという、工夫なんだと思います。

- ■■■■：私はこの東京書籍ですかね、こちらのほうも最初から見ると、やはり現場の先生が、慣れてない先生もこの方式でやれば、何かまとまった論議ができやすくなる。これは解を求めるわけじゃなくて、いろんな議論をなささいということを示している。ああでもないこうでもないという中で、そうかなというふうに言うのも理解するといいますか、そういったものを深めていくという点で、ある程度限られた時間の中で焦点を明らかにして、それで対立する意見が出た中でもそういう意見もあるんだねということに理解していくというのが道徳の評価で求められてるところだと。そういうふうにと考えると、現場に配慮したものかなという、そういう気も私はしています。
- ■■■■：確かに親切過ぎるんですよ。ある意味マニュアル本的で、今道徳を担当する教員が一番困っている、評価をどうするかというのを、生徒の自己評価をベースにして、教員がその道徳性、子供の道徳性がどこまで発達したのかみたいなのを網にかけやすいようなデータを提供してもらっているという、正直言って、やり過ぎの部分があると思う、結構マニュアル的ですし。
- ■■■■：東京書籍が。
- ■■■■：東京書籍。こっちのほうは、言ってみれば素材を、材料を提供して、後ろのほうに設問もあるんだけど、これをどう使いこなすかとか、これを子供たちがどう考えたか評価するかというのは教師に任せてある。前回小学校のときにはどっちかという、教師が工夫できるというか、余り書き過ぎじゃないほうがいいよという意見を私は言ったんですけど、今回こっちでもいいかなと思ったのは、中学校だから。もちろん中学校の教員、力がある先生がいるとは思いますが、理科を専門にやってきた先生や数学を専門にやってきた先生が道徳をやらなきゃいけない、そのときにしっかりと道徳の時間を指導することを考えるとまずスタート材料としてはこれもありかなという感じがします。
- ■■■■：東京書籍のほうがよいというような気はしているんですが。

ここの推薦理由書を書いてある理由がですね、1つ、その内容項目にかかるところが最初に出ているとか、設問があるとかというのを中学生にはそんなに決定的なことじゃないんじゃないかという■■■■委員のご意見にも納得するところがありますし、それから他教科との関連がわかるようになっていると東京書籍には書いてあるけど、マル社とかマル理とか書いてあるだけで、それは書いてあろうがなかろうが、一目でわかるんで。そんなことが決定的な理由になるのかなというふうにちょっと思いますね。しかもオリエンテーションに係るページが1年生にしかないなどは本当に決定的な理由になるのかなと思います。一番大きな差は、最後に2つ聞いているか3つ聞いているかだけなのかなという気がするんですね。何かこの中の理由が、もっと明確に、東京書籍のこの点がよかったよとかというのがあるのでしょうか。
- ■■■■：発問が多過ぎたらしっかり議論できないんですよ。だから、それも一つの推薦理由になると思いますよ。せめて道徳の時間だけはじっくりと考えさせて、み

んなで意見を出し合うというのは、私は決定の理由になると思います。

- [] : 確かにいろんな意見が出るということも大事だけれども、この限られた時間の中でやっぱり深めていって、それが最終的にはちゃんと理解して、態度、行動にあらわれるというところが道徳で一番大事だと思うんですね。ですから、そういうことのコントロールというのが何か指南書みたいな感じなんで、[]委員の少し親切過ぎるんじゃないかという意見もありましたが、道徳が専門ではない先生もやるんでしょから、ある程度こういうガイドが必要だと思います。そうすることで、全体的なある程度の水準というか、そういう議論の深まりができるんじゃないかなと思います。
 - [] : あえてその違いということ言えば、これも親切過ぎる一つなんだけど、自分の学びを振り返って、自分の道徳についての深まりというのか、そのあたりを自己確認できる、そんな工夫がされてるというものかなと思います。
 - 津森教育長 : 大体意見は出尽くしたようでしょうか。そろそろまとめていいでしょうか。
 - 津森教育長 : それでは、特別の教科道徳の教科書でございますが、第1推薦の東京書籍とするということよろしいでしょうか。
 - 委員 : よろしい。
 - 津森教育長 : それでは、東京書籍と決定をいたします。採択理由につきましては、幾つかあるわけですが、それぞれ題材の設問が、問いが絞られているということ、それから考え、議論する道徳ということで、オーソドックスな、いろいろな、多様な使い方ができる、それが期待できるということとさせていただいてよろしいでしょうか。
 - 委員 : よろしい。
 - 津森教育長 : それでは、以上で31年度使用の小・中学校の教科用図書が決定いたしました。もう一度確認させていただきます。国語は東京書籍、書写も東京書籍、社会は日本文教出版、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科も東京書籍、生活も東京書籍、音楽は教育芸術社、図画工作は開隆堂、家庭科は東京書籍、体育は学研教育みらい、中学校の特別教科道徳は東京書籍でございます。事務局は県等への報告等の事務手続を怠りないようよろしくお願いいたします。
- 長時間にわたりましたが、以上で本日の議題はすべて終了いたしました。
- それでは、本日の教育委員会は全て終了させていただきたいと思っております。お疲れさまでした。

閉会 午後4時45分